

## 島前合宿レポート

私は、8月23日から27日まで、島前合宿に参加し、島根県隠岐郡海士町に滞在しました。22日に新宿から夜行バスに乗って松江駅まで行きました。私は、夜行バスに乗るのは初めてで、あまり眠ることができませんでした。1日目は23日の朝に松江駅に着いてから、さらにバスに乗って七類港へ行き、そこからフェリーに乗って菱浦港という港へ向かいました。フェリーに乗るのも初めての体験で、船酔いしそうになりました。3時間ほどフェリーに乗り、海士町に到着してからは、ほとんどがバスでの移動でした。港からバスで宿へ向かい、荷物を置いてからバーベキューの材料を調達し、バーベキューをしました。2日目は自由行動ということで、私は西ノ島へ行きました。西ノ島では釣りを体験しました。始めは苦戦しましたが、コツを掴むとたくさん釣れるようになり、とても楽しかったです。釣りをしている最中に島の住民の方々が声をかけてくださったり、道具を貸してくださったりなど、とても良くして頂きました。夕飯にその日釣ったアジを調理して食べました。普段の生活ではできない体験をすることができた1日でした。3日目は、西ノ島の中学校と、福祉施設のシオンの園に行きました。西ノ島の中学校では、3年生と交流授業をしました。授業のテーマは、「大学生活の様子や大学生の考えを聞き、自分のこれからの生き方や、中学時代に努力することを考えよう。」というもので、大学生が持っている目標や、大学生がどのような学習をしているのかを中学生が知り、自分の将来を考えさせることと、グループでの活動を通して、自分の考えを表現する力を養うのが狙いだと授業の前に説明を受けました。私のグループは、私と男の子1人でした。グループに分かれたので、主にグループワークが中心でした。まず、中学生から大学生に対して質問をする時間が設けられました。私と同じグループの彼は、最初に大学生の生活や将来の夢、大学生活で大変なことなどを質問してくれました。大学生活のことや大変なこと、苦労していることはもちろん教えられたのですが、私自身の将来の夢については、未だに明確な目標が無いので、彼が納得のいくような応答をすることができたか分からず、情けないなと思いました。そこで、私は中学生は自分の将来についてどのように考えているのか疑問に思い、同じグループの彼に将来の夢について質問してみました。すると彼は、「将来は医者になりたい。困っている人を助けたい。人を助ける仕事がしたい。そのために勉強して大学に行きたい。」と答えてくれました。正直、驚きました。私が中学校の頃はここまで考えてはいなかったもので、良い意味でかなりショックを受けました。私は、彼ならば彼自身の夢を叶えることができるのではないかと思いました。次の質問は、大学生の中学・高校時代のことについて、どのくらい勉強をしていたか、部活は何をしていたのか、特に力を入れたことは何かなどの質問を受けました。特に力を入れたことは何かという質問については、勉強と答えた方が良かったのかもしれないと思いました。正直に部活動と答えました。私自身、勉強は苦手で大好きな部活動に打ち込んでいたと彼に言うと、彼も勉強は嫌いで部活の方が好きだと打ち明けてくれ、2人の共通点を発見す

ることができました。お昼には中学生と一緒に給食を食べました。給食を食べたのは4年ぶりだったので、とても懐かしい感覚でした。給食を食べた後は体育館で、一緒にバレーボールをしました。とても楽しかったです。今回中学校に訪問して、授業のお手伝いをさせてもらった感想としては、自分が生徒に教える立場になるのは初めてで、とても新鮮な時間だったといこと、そして中学校時代の私よりも、この学校の生徒は自分の将来について前向きに考えていてすごいと思いました。私ももっと自分の将来について考えるべきだと考えさせられました。とても有意義な体験でした。中学校の訪問を終えた後は、中学校の校長先生に福祉施設のシオンの園まで送っていただきました。シオンの園には、保育園や老人福祉施設、障害者福祉施設、放課後に児童預かる施設など様々な福祉施設が集まっていました。私は、保育の担当だったので、保育園を訪問しました。園長さんが不在だったので、主任さんにインタビューをしました。インタビューの内容は、子供と職員の人数や、子供の人数に対して職員の人数は足りているのか、困っていることは何か、待機児童はいるのか、職員の人数は足りているのか、園児たちの島ならではの遊びはあるのか、園児たちの通園方法、親の職業、災害への対策はどうなっているのか、西ノ島に保育園はいくつあるのかなどです。シオンの園の保育園は、子どもが46名、職員が14名です。困っていることは、やはり保育の仕事なので、賃金が安いことが挙げられました。待機児童の人数は3人でした。職員の人数は足りているとのことで、職員1人あたりが担当する園児の人数は、0歳児が3人、1.2歳が6人、3歳以上は30名だそうです。理由としては、3歳以上になると、手がかからなくなるからということでした。島ならではの遊びに関しては、海に遊びに行ったり、登山をしたりなど、島の特色を生かした遊びをしているとのことでした。通園方法は主に車での送迎が多いそうです。親の職業は、公務員や漁師の割合が多いそうです。災害への対策は、地震が起きた時の津波への対策を重点的に行なっているそうです。西ノ島には保育園が2つあって、シオンの園と、三田保育園があるそうです。インタビューの後は、園児と交流しました。一緒におままごとをしたり、積み木をしたり、塗り絵をしたり、おんぶをさせられたりなど、疲れはしましたがとても癒されました。保育の仕事のやりがいはこういうところなのかなと思いました。保育の仕事は賃金が安いと言われますが、子どもの命を預かる仕事ですので、責任があり必要な仕事だと思います。4日目は、海士町のキンチャモンチャ祭りに参加しました。午前中は海水浴をして、貝をたくさん取りました。海士町の花はとても綺麗で泳いでいる魚が見えるほどでした。これは、東京では見ることはできないと思いました。午後からキンチャモンチャ祭りに参加しました。キンチャモンチャ祭りとは、海士町で年に一度行われるお祭りで、それぞれのグループで仮装をして、両手にしゃもじを持って踊ります。私も飛び入り組としてパレードに参加し、1時間ほど踊りましたが、さすがに疲れしました。そのあとは、花火を見ました。花火は打ち上げるところがとても近くにあったので、とても迫力がありました。4日目の最終日は、宿の掃除をして、海士町が地元の法政の先輩宅から、お昼ご飯を頂きました。サザエの炊き込みご飯など、島ならではの食事でした。とても美味しく感動しました。そのあとは、バスに乗って港まで行き、フェリーで七類港まで

行き、バスで松江駅に着いてから、夜行バスに乗って朝の7時に新宿に到着して、島前合宿終了となりました。今回参加してみたの感想は、東京とは違って、コンビニもなく、人口も少なく、交通の便も悪いですが、人情に溢れていて人と人との繋がりをとても大事にしているのが伝わってきましたし、山や海などの自然の豊かさなどの良さがあり、子育てをするのには最適な場所だなと私は思いました。人口が少なく、都市のように栄えているわけでもないのに、そこに住む住民は幸せそうに生活しているなと思いました。東京に住んでは決して味わうことができないような温かさを感じた時間でした。来年は、自分たちの学年が企画する立場になりますが、今回先輩方が残してくださったものを活かして、来年もぜひ参加したいと思います。